

# 米子市SDGs未来都市計画「住んで楽しいまち」未来計画

鳥取県米子市（2024年度選定）

（様式2-1）

## 1. 地域の特徴と課題及び目標

本市は、鳥取県の西部、山陰のほぼ中央に位置し、東には国立公園「大山」、北に「日本海」、そして西にはラムサール条約に登録されている「中海」という、豊かな自然に囲まれている。医療施設や介護施設が非常に充実しており、2006年に「健康都市宣言」「福祉都市宣言」を行っている。  
誰もが生きる喜びを感じられ、人生の充実感を得ることができる「住んで楽しいまち」をめざし、少子高齢社会に対応した地域づくり、持続可能な産業育成、「ゼロカーボンシティ」の実現、公共施設の持続可能なマネジメントといった課題に取り組んでいく。

## 2. 関連するゴール



## 3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

経済面においては、本市の「歩いて楽しいまちづくり」を推進し、車中心から公共交通と歩行者中心への転換を促すため、各エリアのウォークアブル推進事業やエリア拠点の魅力向上事業を実施するとともに、キャッシュレス決済を促進し、地域経済循環の活性化を図っている。社会面においては、市民の健康寿命の延伸めざし、フレイル対策事業やヘルスケアプラットフォーム実装事業を実施するとともに、地域コミュニティの充実を図っている。環境面においては、脱炭素先行地域として、ゼロカーボンシティを表明し、アクションプランのもと未利用エネルギー活用事業を実施している。

## 4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

本市は令和4年4月に脱炭素先行地域に選定され、令和12年度までに公共施設等における電気使用に伴うCO2排出量を実質ゼロとするため、以下の取組を行っている。

- 再エネ供給事業 ○太陽光発電PPA事業
  - 未利用エネルギーを活用した発電事業 ○置き配普及促進事業
- また、健康寿命を延伸し、誰もがずっと元気で健康に暮らせるまちをめざすとともに、居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成し、人が集うまちをめざす取組を進めている。
- 各エリアのウォークアブル推進事業
  - フレイル対策啓発事業
  - 米子市ヘルスケアプラットフォーム事業

## 5. 取組推進の工夫

脱炭素先行地域に係る事業担当の名称を環境・脱炭素推進担当に変更し、事業の推進・進捗管理を実施。市域の脱炭素化の取組を推進するため、ホームページ、YouTube で周知・啓発を行うとともに、個々の職員の意識が高まるよう、掲示板による周知・啓発を行う等、業務改善、省エネルギー化及び省資源化の取組を推進。

## 8. 他地域への展開状況（普及効果）

よなご環境Ch.（YouTube）やホームページにおける環境政策の普及啓発を実施しているほか、ウォークアブル推進事業について他自治体などとの意見交換会や視察受け入れ、民間団体への事例紹介などの講演について対応、米子市ヘルスケアプラットフォーム事業について地域共通デジタル診察券アプリほか5サービスを提供している。

## 6. 取組成果

- 再エネ供給事業  
内浜処理場、皆生処理場に対し、自己託送により、市クリーンセンターで発電した再エネ電力を供給
- 太陽光発電PPA事業  
弓ヶ浜半島に点在する荒廃農地等に太陽光発電設備を設置し、令和7年5月1日から電力の供給を開始。また、米子市上下水道局において、太陽光発電設備及び蓄電池設備の設置工事に着手。
- 未利用エネルギーを活用した発電事業  
内浜処理場に消化ガス発電機、市内13公民館に蓄電池及び4公民館に太陽光パネルを設置し、発電事業を開始。令和6年度実績は発電量361,216kWh、発電収入2,897,227円。

## 7. 今後の展開策

脱炭素先行地域づくり事業としては、令和7年度以降は2か年目となる米子市上下水道局への太陽光発電設備及び大規模蓄電池の設置に加え、公共施設及び荒廃農地への太陽光発電設備の設置をすることで、さらなる再エネ導入を進めていくこととしている。

# SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2024年度選定

鳥取県米子市

2025年8月

SDGs未来都市計画名

米子市SDGs未来都市計画「住んで楽しいまち」未来計画

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

米子市SDGs未来都市計画「住んで楽しいまち」未来計画

## (2) 2030年のあるべき姿

「住んで楽しいまち」とは、誰もが生きる喜びを感じられ、人生の充実感を得ることができるまちである。人生の喜びや充実感は、人が成長し、物事が前進し、まちが発展するときに感じられるものである。本市は、2020年に策定した『米子市まちづくりビジョン』（第4次米子市総合計画及び第2期米子市地方創生総合戦略）において、市の将来像として「住んで楽しいまち よなご」を掲げ、2029年度までの10年間で実現すべき目標として定め、具体的に以下に記載したまちづくりを行っていることとしている。自然の豊かさという恩恵を最大限に活かし、それを市民の暮らしや生業へとつなげていくことで、「このまちで仕事に遊びに人生を存分に楽しんでもらいたい」という理念を市民と共有し、2030年にはそれを実感してもらえるまちが創造されているものとする。

## (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境

## (4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2024年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	中心市街地における歩行者等通行量【8.3,8.4,8.9】	2023年3月 9,643 人	2024年 10,893 人	2026年 10,800 人	108%
2	年間新規創業件数【9.1,9.2,9.4】	2023年3月 50 件	2025年3月 71 件	2030年 60 件	210%
3	公民館の年間利用者数【3.4,3.7,3.8,4.1,4.2,4.4,11.3,11.7】	2022年3月 231,193 人	2024年3月 268,525 人	2026年 310,000 人	47%
4	年間出生数【3.4,3.7,3.8,4.1,4.2,4.4】	2022年12月 1,182 人	2024年12月 1022 人	2030年 1,200 人	-889%
5	75歳以上の高齢者で介護保険の認定を受けている人の割合【3.4,3.7,3.8,4.1,4.2,4.4,11.3,11.7】	2023年3月 34.3 %	2025年3月 32.6 %	2026年 35.0 %	107%
6	市域から排出されるCO2排出量【7.2,7.a,12.5,12.8,13.3】	2023年度 892,000 t-CO2	2024年度 956,000 t-CO2	2030年 637,875 t-CO2	-25%
7	1日1人当たりのごみ排出量【7.2,7.a,12.5,12.8,13.3】	2023年3月 885 g/人・日	2025年3月 838 g/人・日	2030年 810 g/人・日	63%

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## （5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

## ●指標4：「年間出生数」

・出生数の減少は、未婚・晩婚化等の様々な要因が絡み合っており、合計特殊出生率の低下などにも影響が表れている。本市においては、人口減少社会を前提にしながら、その中でも地域社会を維持しつつ、経済成長を図ることとしている。国の示す「地方創生2.0」の動きと連動しながら、少子化対策や魅力的な働く場の確保、子育て環境の充実などに重点的に取り組んでいながら、若者世代にとっても「働きやすい」、「子育てしやすい」、そして「楽しい」、米子のまちづくりを推進していく。

## ●指標5：「75歳以上の高齢者で介護保険の認定を受けている人の割合」

・進捗が良かった要因としては、介護予防及びフレイル予防の取組みの推進により、要支援・要介護認定者数が減少したためと思われる。

## ●指標6：「市域から排出されるCO2排出量」

・達成度が25%未満となった要因としては、最新値である2021年度において、新型コロナウイルス感染症に起因する経済活動の停滞から回復したことにより、エネルギー消費量が増加したこと等が考えられる。今後について、本市職員をはじめ、市民及び事業者へ積極的に周知啓発を行い、CO2排出量削減に向けた取組を推進していく。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2024年実績	2026年目標値	達成度(%)
1	米子駅周辺まちなかウォーカブル推進事業、角盤町周辺まちなかウォーカブル推進事業、米子駅北広場ウォーカブル推進事業、米子城・魅せる！プロジェクト事業	中心市街地における歩行者等通行量【8.3,8.4,8.9】【再掲】	2023年3月 9,643 人	2024年 10,893 人	2026年 10,800 人	108%
2	もっとキャッシュレスで応援！よなごプレミアムポイント還元事業などの決済アプリ J-CoinPayを活用した事業	J-Coin Pay アプリ登録者数（米子市民）【9.2,9.3】	2024年2月 15,068 人	2025年3月 21,062 人	2026年 25,000 人	60%
3	放課後子ども教室推進事業、フレイル対策啓発事業	公民館の年間利用者数【3.4,3.7,3.8,4.1,4.2,4.4,11.3,11.7】【再掲】	2022年3月 231,193 人	2024年3月 268,525 人	2026年 310,000 人	47%
4	フレイル対策啓発事業、健康ポイント事業、フレイル予防応援パスポート事業、ヘルスケアプラットフォーム実装事業	フレイルチェックの回数【3.4,3.7,3.8,11.3,11.7】	2023年3月 5,000 回	2025年3月 12,135 回	2026年 17,500 回	57%
5	脱炭素先行地域づくり事業、「ゼロカーボンシティよなごアクションプラン」、「ゼロカーボン米子市役所アクションプラン」、よなご未利用エネルギー活	市内公共施設におけるオンサイト PPA 事業による再生可能エネルギー由来の発電設備の導入数【7.2,7.1,9.4】	2024年2月 0 施設	2025年3月 2 施設	2026年 5 施設	40%

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2024年～2026年

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

キャッシュレス決済アプリ J-Coin Pay を利用して、市内登録店舗でのキャッシュレス決済者を対象に消費喚起施策を講じるとともに、還元ポイントについても市内で消費され、地域経済の好循環を生み出している。スマートフォンに不慣れな方を対象とした「デジタル活用臨時支援窓口」で登録の補助も行っており、積極的な普及展開を図っている。

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

## ● 地方創生・地域活性化への貢献

・「公共交通と歩行者中心」の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へと生まれ変わらせるとともに、フレイル対策関連事業やヘルスケアプラットフォーム実装事業など地域での健康づくりの推進により少子高齢社会に対応した地域づくりに貢献している。

## (4) 有識者からの取組に対する評価

- ・脱炭素を目指す上での主な対策に対する達成度を盛り込むことができるかと思う。また、脱炭素と健康・福祉等をかけあわせてご説明いただけるとより良いかと思う。
- ・米子市の地域資源を上手く使いきれていない状況である。経済、社会、環境の好循環の形成に向けて、さらなる取組を期待したい。
- ・健康・福祉を掲げ、「環境」「経済」「社会」のバランスが取れた取組をされている。特に、中心市街地での歩行者量等通行量や、年間新規創業者数で大きな成果をあげられていることは評価できる。しかし、そういった取組と環境（脱炭素）、健康・福祉とのつながりが説明できていないことが残念である。
- ・CO2削減量については、主な対策と紐づけて示されるべきであるし、住宅の断熱は家庭部門の省エネ対策だけではなく、健康面での効果は大きいはずである。脱炭素先行地域採択自治体としても、もっと脱炭素と「社会」「経済」への関係性を整理され、成果をアピールされた方がよい。
- ・二酸化炭素排出量は、コロナ以前を基準年とするどのような傾向となっているといえるのか。
- ・公的施設等への再エネ発電設備設置に重点があるが、これが計画全体においてどのような位置づけであるのかが明確でない部分がある。
- ・年間出生数が減少した主な要因は何と認識されているか。高齢化が進み母親年齢に相当する人口が減っているとするとやむを得ない現象であるとも考えられる。
- ・J-Coin米子プレミアムポイントとフレイル、健康ポイントの連携についても評価することと、横断的なその行動変容を支援する仕組みの検討を期待する。
- ・脱炭素先行地域と連動するカーボンニュートラルの実現の進捗評価についても検討を期待する。
- ・計画の内容が当初の提案から変わっているように感じ、また、タイトルが具体的な取組を反映していない印象を受けた。
- ・当初の提案から変わっているように感じた。
- ・計画のタイトルが具体的な取組を反映していないように感じる。